

学校法人城西大学 国際学術文化振興センター

JOSAI INTERNATIONAL CENTER for the Promotion of Art and Science (JICPAS)

学校法人城西大学

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-26

☎ 03-6238-1300

http://www.josai.jp/

Newsletter

Josai University Educational Corporation
3-26 Kioi-cho, Chiyoda-ku, Tokyo ☎ 03-6238-1300 http://www.josai.jp/

No.16
(2013.3.31 発行)



水田理事長によるオープニングスピーチ



22か国の大使館から関係者が参加

国際交流活動

本学にて、「V4+日本

東方パートナーシップ・セミナー」を開催

日時：2013年2月5日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2013年2月5日、本学東京紀尾井町キャンパス地下ホールにおいて「V4（ヴィシエグラード4）+日本 東方パートナーシップ・セミナー（Visegrad Group and Japan, together for Eastern Partnership）」が、外務省、V4諸国、本学の共催により開

催されました。

中欧のチェコ、ハンガリー、ポーランド、スロバキアの4か国は、各国間の友好と協力を進めることを目的とした協力の枠組みとして「ヴィシエグラード・グループ」を形成しており、グループの総称として「ヴィシエ

ラード4か国（V4）」とも呼ばれています。日本でも「V4+日本」として、V4との対話・協力を推進しており、外務省が経済、環境、開発協力・エネルギー効率等のトピックスに関する各種セミナーを行ってきま

た。また、本学は、中期目標でグローバル人材の育成に向けた国際交流活動強化を掲げて世界のさまざまな大学と積極的に国際交流を深めるなか、特に中欧地域との教育交流を強化しています。

現在ポーランドがV4議長国を務める今回、V4諸国の関心も高い「東方パートナーシップ」(Eastern Partnership : EUが欧州近接国施策として東方6か国(ゲルジア、ウクライナ、アゼルバイジャン、モルドバ、アルメニア、ベラルーシ)に対する地域的協力関係を強化する枠組み)をテーマとして、更に幅広い層への日本におけるパートナーシップ対象地域の認知・理解促進を目的に、中欧地域の大学と交流関係の深い本学キャンパスにおいて開催することとなったものです。

セミナーには、日本政府をはじめ、V4および東方パートナーシップ対象国の大使や22か国の大使館の外交団、本学関係者、学生、有識者、本学のグローバル教育を支援していただいている企業の方々ら約150名が参加しました。

セミナーのオープニングスピーチとして、水田宗子理事長は「今回の東方パートナーシップ・セミナーを本学で開くことができて誠に光栄です。本学はグローバルに活躍できる人材育成を目指しており、次世代を担う本学の学生や留学生たちにとっても、今回のセミナーは大変有意義な機会となると確信しています」と挨拶しました。

その後、城内実外務大臣政務官、ポーラ



城内実外務大臣政務官のキーノートスピーチ

ド外務次官のグラスイナ・ベルナトヴィチ博士、駐日欧州連合代表部代表・大使のハンス・ディートマール・シュヴァイスグート氏がそれぞれキーノートスピーチを行いました。

セミナーは、昼食を挟んでテーマ別に以下の四つのセッションが実施され、各セッションでは日本とパートナーシップ対象地域における各分野の専門家がパネリストとしてプレゼンテーションを行った後、活発な議論が展開されました。

また、本学から松野研一教授が各セッションのコメントーターを務め、議論を大いに深めました。セミナーの最後に、城西国際大学の柳澤伯夫学長がクロージングスピーチを行



グラスイナ・ベルナトヴィチ博士のキーノートスピーチ

いました。

なお、セミナー終了後のレセプションには各セッションのパネリストや聴講者たちが集い、日本とV4・パートナーシップ対象地域の今後の協力・発展に関する意見交換等が活発に行われました。

今回のセミナーを通じて、V4およびパートナーシップ対象地域の各分野における対話・協力体制整備に向けた課題や今後の方向性が共有されるとともに、聴講した本学学生らにとっても、各国の代表者の生の声を聞き、外交の現場を実体験することによって地域の情勢をより深く理解し、これまで以上にグローバルな視野を持つための大変貴重な機会となりました。



ハンス・ディートマール・シュヴァイスグート氏のキーノートスピーチ

なお、ハンガリーのエドヴェシュ・ロラーンド大学 (Eötvös Loránd University) から城西大学、城西国際大学大学院に留学し、卒業後駐日ハンガリー大使館に外交官として勤務しているアンナ・バーリンさんも、本セミナーに外交団の一人として参加するなど、本学の目指すグローバル人材育成は着実に成果を生んでいます。

また、本学では2008年以降、城西大学・城西国際大学両学でのべ2千名の学生がハンガリー語を学んできましたが、この4月からは、加えてポーランド語・チェコ語の授業もスタートする予定で、今後一層のグローバル教育の充実を図ります。



セミナーの様子

- **セッション1**
Democracy, Good Governance, Stability
(民主主義、良好なガバナンス、安定性)
- **セッション2**
Economic integration and cooperation
(経済統合と経済協力)
- **セッション3**
Energy security (エネルギー保障)
- **セッション4**
Direction of Eastern Partnership and Japanese Diplomacy
(東方パートナーシップの方向性と日本の外交)

名誉学位

ハンガリー・ブダペスト商科大学より特別栄誉教授を授与

日時：2012年11月8日
場所：ブダペスト商科大学、ハンガリー

名誉学位

2012年11月8日、ハンガリーを訪問中の学校法人城西大学の水田宗子理事長は、ブダペスト商科大学 (Budapest Business School) において、同学の特別栄誉教授 (Professor Honoris Causa) を授与されました。

本学とブダペスト商科大学は、2007年

1月に学術交流協定を締結して以来、交換留学や交流プログラムの実施など、さまざまな形で積極的に交流を展開してきました。今回の特別栄誉教授は、これまでの両学の交流における水田理事長の多大な功績に対して授与されたものです。なお、特別栄誉教授はブダペスト商科大学では最高の称号であり、過去

にもわずか3名しか授与されていない大変価値のあるものです。

ブダペスト商科大学の Annual Science Conference の一環として行われた授与式には、Eva Sándor-Kriszt 学長をはじめ各学部長らが出席し、Eva 学長から水田理事長に特別栄誉教授の証書とトロフィーが授けられました。

引き続き、今回の授与を記念して水田理事長が「21世紀グローバル社会における女性の役割の変容」というテーマで同大学の学生や教職員に講演を行いました。

なお、水田理事長がこれまで他学から受けた名誉学術称号は中国 華南師範大学 (South China Normal University) 名誉教授、韓国 東西大学 (Dongseo University) 名誉博士、ハンガリー セント・イシュトバーン大学 (Szent István University) 名誉博士、中国 東北大学 (Northeastern University) 名誉教授に次ぐ五つ目となりました。

授与式終了後、城西大学訪問団は学内にて同学の日本語教育研究成果のプレゼンテーションを見学した後、ブダペスト市内にて本学からの留学生や、本学への来年度留学希望者との交流を行いました。学生たちは交代でドナウ河沿いの観光名所を日本語で紹介してくれました。

また本学は、今年度より「世界の中の日本」を理解し、グローバル社会においてリーダーシップを発揮できる人材育成を旨として「世界の中の日本」プログラムをスタートさせましたが、その関連プログラムの一つとしてブダペスト商科大学との間でプログラムを計画中であり、今回は、元駐日ハンガリー大使 シュディ・ゾルタン氏とエリカ夫人も含めて打ち合わせをもち、具体的な実施内容、今後の進め方や準備等について話し合いました。



授与とともに祝福を受ける水田理事長



学生たちがドナウ河の名所を日本語で紹介



美術館の様子

た。そして、同日夜にはブダペスト市内において、駐ハンガリー日本大使館の山本忠通大使をはじめとする大使館関係者と会食をし、ハンガリーの大学との学術交流の状況や今後の取り組み等についてご説明するとともに、今後の取組等について意見交換を行いました。

翌9日はブダペスト市内のフェレンツ・ホップ東洋美術館 (Ferenc Hopp Museum of East Asian Arts) を訪問、見学しました。本美術館は、ハンガリーで最大の東洋美術品を所蔵する美術館として有名で、本学「世界の中の日本」プログラムの中でハンガリー文化を学ぶ授業の受け入れ先として決定している二つの美術館のうちの一つです。

インドネシアでの Asia Summer Program に参加



日時：2012年7月16日～8月3日
場所：ペトラ・クリスチャン大学、インドネシア

学校法人城西大学は、インドネシアのペトラ・クリスチャン大学 (Petra Christian University)、韓国の東西大学 (Dongseo University)、マレーシアのマレーシア・ペリス大学 (通称：ユニマップ工科大学 (UniMAP)、Universiti Malaysia Perlis)、タイのバンコク大学 (Bangkok University) と Asia Summer Program 2012 を共同開催しました。



伝統染物の授業を終えて

このプログラムは、従来の語学研修だけでなく、英語を用いて東南アジア諸国の経済、農業、環境、工学などの多岐にわたる専門科目を学ぶことを目的に開催されたもので、第1回目となる今回は、インドネシア第2の都市であるスラバヤ市にあるペトラ・クリスチャン大学にて、2012年7月16日から8月3日の日程で行われました。本学からは城西大学、城西国際大学から18名が参加し、参加6大学合計で約150名が一堂に会しました。

参加した学生たちは、「インドネシアの中小企業」「スラバヤのビジネス」「米や食物の経済学」「イノベーションと経済学」「持続可能なエコ素材」「インドネシア語」等の幅広いテーマを英語で学びました。

プログラム最後の3日間は、インドネシアの文化に触れることのできる授業が開催され、バティック染め(ジャワ更紗)、伝統舞踊、伝統武道などを体験しました。また、週末にはインドネシアの文化や食文化を伝える催物も開催され、食を通じた異文化交流も体験しました。

参加した学生たちは、今回のプログラムを通じてアジアの国々からの大学生と交流を深め、文化や宗教の多様性、他者との共生について学び、国際社会におけるリーダーシップの基礎を身に付けることができ、本学の目指す「グローバルに貢献できる人材育成」教育の一つとして、貴重な機会を得ました。

Asia Summer Program は、参加大学が持

ち回りで開催することになっており、今回は、2013年の夏に韓国の東西大学で開催

が予定されています。

マレーシア英語集中研修プログラムに90名の学生が参加



日時：2012年9月1日～16日
場所：トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学、マレーシア

城西大学および城西国際大学は、2012年9月1日から16日の約2週間の日程で、マレーシアにて英語集中研修プログラムを実施しました。

本学は、グローバル人材の育成を目指し、

海外のさまざまな大学と学術交流協定を結んで多様な国際交流を行なっていますが、今回はその一環として両大学の学生たちの英語力と異文化理解の向上を目指して、本学と学術交流協定を結んでいるトゥンク・アブドゥル・ラーマン大学 (Universiti Tunku Abdul Rahman (UTAR)) で英語漬けとなる研修を行いました。

マレーシアは、多文化・多民族が共生しているため英語が共通語として使われており、グローバル人材の育成には最適な国の一つです。本学もマレーシアとの交流を強化しており、現在UTARを含めた四つの大学と学術交流協定を締結しています。

今回は、城西大学および城西国際大学から合計約90名の学生が参加し、UTARの英語教員が主体となって研修が行われました。授業は、英語レベル別に五つのクラスに別れて1日6時間×10日間というハードな集中講義でしたが、英語によるゲームやディスカッションなども含め、学生たちは楽しみながら英語力を高めることができました。また、英語以外にもペラ州の地域振興について学んだり、UTARの学生たちとの交流を通じてさまざまな文化を体験したりして海外を肌で感じ、多文化社会理解と国際交流を深め、これまで以上にグローバルな視野を身に付けることができました。

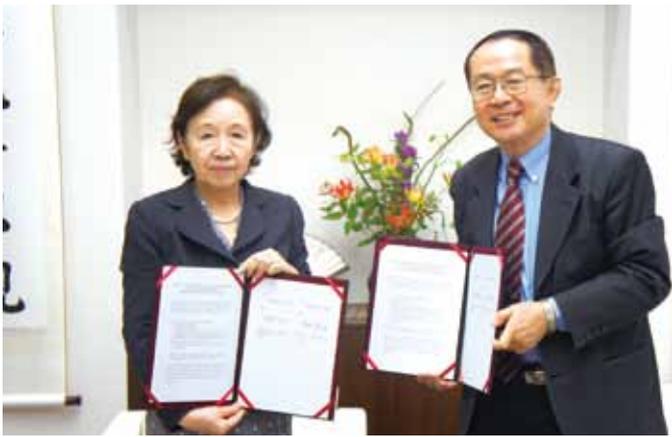


英語集中研修プログラムの様子



泰日経済技術振興協会と連携協力を合意

日時…2012年10月3日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



合意書を締結する水田理事長とプラウンン会長

2012年10月3日、タイの「泰日経済技術振興協会」(Technology Promotion Association (Thailand-Japan) (TPA))のプラウンン・シオワッタナー会長が学校法人城西大学に来学し、水田宗子理事長と面会した後、本学と同協会は「連携協力に関する合意書」を締結しました。

本件は、本学のイノベーションセンター・土居征夫所長が推進する国際的な産学連携・

人材育成活動の一環として実現したものです。

泰日経済技術振興協会は、元日本留学生・研修生が中心となり、タイの経済発展のため、日本からタイへの最新技術と知識の移転・普及、人材育成を行うことを目的に1973年に設立された公益法人です。そして設立以来、日本の産業界のノウハウを用いた産業セミナーや工業計測、語学講座など、タイの中で日本の生産、生産管理技術を導入し、着実に成果を上げています。また、同協会は「日本型ものづくり大学」を指して2007年に設立された泰日工業大学(Thai-Nichi Institute of Technology)の母団体でもあります。

本学は、中期目標でグローバル人材の育成に向けた国際交流活動強化を掲げて世界のさまざまな大学と積極的に国際交流を深めており、最近では特に中欧やアジアでの国際交流を強化しています。

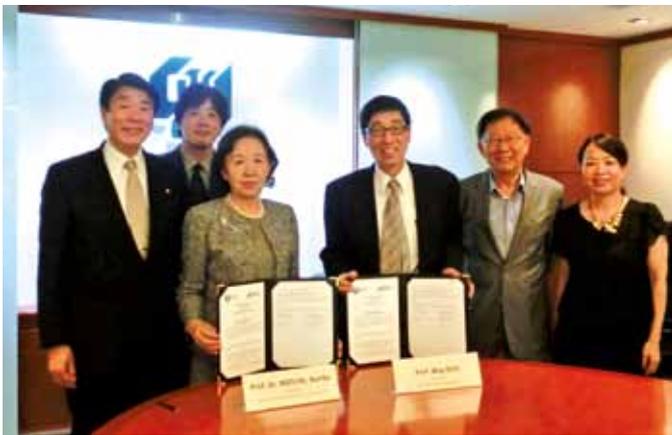
今回のプラウンン会長と水田理事長の会見で、今後泰日経済技術振興協会と本学で教職員や学生・研修生の交流や語学研修、両国文化交流などのグローバル人材育成に関する諸事業に取り組みほか、共同研究や両国の中小企業関係者の相互交流などにも取り組んでいくことを確認しあい、合意書に締結しました。

今回の合意を契機に、今後、本学とタイの大学の間でさまざまな学術交流が始まることが大いに期待されます。



香港城市大学を訪問、学術交流協定を締結

日時…2012年10月10日
場所…香港城市大学、中華人民共和国



学術交流協定を締結

水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学訪問団は、2012年10月10日香港城市大学(City University of Hong Kong)を訪れ、学術交流協定を締結しました。

今回は水田理事長、北村幸久理事長補佐らがWay Kuo学長、C.T. Ju特別教授らと会い、交換留学や学部交流を核として、今後両大学でさまざまな学術交流を行っていくことと合意し、協定を締結したものです。特に今後はメディア関連等での交流が想定され、当日も協定締結後の学内見学に続い

て、かつて城西国際大学に2年勤務しておられたLouisa Wong助教授と今後の展望について打ち合わせをもち、メディア学部等も詳しくご案内いただきました。

本学は、中期目標でグローバル人材の育成に向けた国際交流活動強化を掲げて世界のさまざまな大学と積極的に国際交流を深めるなか、最近では特に中欧やアジアでの国際交流を強化しており、今回もその一環として位置付けられるものです。

香港城市大学は、1984年に設立され



香港城市大学キャンパス



チェコ国立銀行副総裁が来学、講演を開催

日時…2012年10月16日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



会見する水田理事長とフィアルコヴァー大使（中）、トムシーク副総裁（右）

2012年10月16日、チェコ共和国の国立銀行副総裁ウラジミール・トムシーク氏が東京紀尾井町キャンパスに来学され、講演をしていただきました。

た、香港・九龍に本部を置く公立大学です。経営学部や法学部、メディア学部、エネルギー・環境学部など7学部があり、特にメディア関連が有名です。約2万名の学生を有しており、関連する業界との連携を通じて学生にさまざまな実務経験を積ませる機会を提供す

ることに重点を置いています。また、Q S世界大学ランキングの2012-2013年版では95位にランクされています。今回の学術交流締結により、今後両大学の間で具体的な交流が活発に展開されることが大いに期待されます。

本学は、中期目標でグローバル人材の育成に向けた国際交流活動強化を掲げて世界のさまざまな大学と積極的に国際交流を深めるなか、特に中欧地域との教育交流を強化しており、すでにハンガリーとは語学・学生の交換などを通じ、活発に交流を行っております。その隣国であるチェコに関しても、水田理事長のチェコ共和国大使館訪問を契機に、カテリナ・フィアルコヴァー大使のご紹介により2012年3月にブラハ経済大学と学術交流協定を締結しました。その後6月には本学訪問団がカレル大学 (Charles University in Prague)、プラハ経済大学 (University of Economics, Prague)、マサリク大学 (Masaryk University) を訪問しています。

それらの交流実績に基づき、10月9日から日本で開かれた国際通貨基金 (IMF)・世界銀行年次総会に出席のためトムシーク副総裁が来日されているのを機に、本学とチェコの教育交流の一環としてフィアルコヴァー大使らと共に今回来学されたものです。

当日は、キャンパスの玄関でチェコの国旗を振る多数の学生たちがお出迎えしました。そして講演に先立ち、理事長や本学関係者た



講演するトムシーク副総裁

ちとの面会が行われ、本学の紹介やチェコとの交流状況等についての説明、意見交換等を行いました。

その後、城西大学、城西国際大学の学生・教員ら150名が待つ地下ホールにて講演が行われました。講演に先立ち、水田理事長は「本学はハンガリーとの交流が進み、今年もハンガリーから21名の学生が本学に留学し、本学でも1千名以上の学生がハンガリー語を学んでいます。今回の副総裁、大使のご来学により今後チェコとの交流が進んでいくことを期待しています。今日は、激動するグローバル経済の最前線で一国の経済活動の根底を支える中央銀行の副総裁のお話を伺える非常に貴重な機会であり、皆さまの得難い経験になることと思います」と述べました。また、フィアルコヴァー大使も「4月に行われた城西国際大学20周年記念の世界学長会議に招かれ、充実した国際交流ぶりに大いに感心しま



講演の様子

した。今後はチェコの大学との交流も盛んになり、来年には相互に留学ができるようになることを期待しています」とご挨拶されました。

そして、副総裁に「チェコ経済と金融政策、欧州債務危機の衝撃」と題したご講演をいただきました。講演では、チェコ経済の概要・特徴や、経済危機におけるチェコ経済と国立銀行の金融政策、今後のマクロ経済の見通し、欧州経済危機のインパクトなどについて貴重なお話をいただきました。出席していた学生たちは皆熱心に講演に聞き入っており、講演後には活発な質疑応答がありました。

また、講演終了後のレセプションにおいても、各国からの留学生を含む本学の学生らがスピーチや意見交換などで副総裁や大使らと積極的に交流し、大変充実した国際交流の機会となりました。



ラウル・ワレンバーグ生誕100周年記念植樹式

日時：2012年10月25日
場所：城西国際大学千葉東金キャンパス



ラウル・ワレンバーグ氏生誕100周年を記念して白樺を植樹しました

第2次世界大戦中のナチスによるユダヤ人虐殺から、約10万人もの命を救ったスウェーデンの実業家ラウル・ワレンバーグ氏の功績を称えて、2012年10月25日に城西国際大学千葉東金キャンパスにおいて、「ラウル・ワレンバーグ生誕100周年記念植樹式」を行いました。今回の植樹は、ワレンバーグ氏の歴史的偉業を学生たちに関心を持ってもらうため、スウェーデン、イスラエル、ハンガリーの3大使館が共同で企画し、ハンガリーを含む中欧の大学と交流の深い本学にて行われたものです。

ワレンバーグ氏は1912年生まれのスウェーデン人で、ナチスに占領されたハンガリーに、スウェーデンの外交官として赴任後、保護証書をユダヤ人に配布するなど、ユダヤ人の救出に奔走しました。1981年、アメリカがワレンバーグ氏に名誉市民権を授与したほか、カナダ、イスラエルでも名誉市民となりました。

当日は、ハンガリーのコヴァーチ・ゾルターン行政・法務副大臣をはじめ、イスラエルのニシム・ベンシトリット大使、スウェーデンのラーシュ・ヴァリエ大使、ハンガリーのセルダヘイ・イシュトバーン大使3か国の大使らが出席して、ワレンバーグ氏の信念に基づいた生き方を象徴する約5メートルの白樺を皆で植樹しました。

式典の後、水田記念ホールにてNPO法人ホロコースト教育資料センターの石岡史子氏による記念講演会「10万人を救ったラウル・

ワレンバーグ（行動力で世界を変えた人）が行われました。ワレンバーグ氏の功績やその活動内容、ホロコーストの恐ろしさなどが映

像を交えて説明され、国際関係に関心を持つ500人余りの学生が熱心に聴いていました。



ハンガリーのコヴァーチ・ゾルターン行政・法務副大臣



イスラエルのニシム・ベンシトリット特命全権大使



スウェーデンのラーシュ・ヴァリエ特命全権大使



ハンガリーのセルダヘイ・イシュトバーン特命全権大使

マレーシア マラ工科大学と学術交流協定を締結

日時：2012年10月25日



2012年10月25日、学校法人城西大学は、マレーシアのマラ工科大学 (Universiti Teknologi MARA) と学術交流協定を締結しました。

本年7月に水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学のマレーシア訪問団が同学を訪問し、アズニ・ザイン・アーメッド副学長以下、主に国際関係担当の方々と面談して、学生の相互留学の検討、観光学におけるダブル・ディグリー・プログラムの検討、メディア学部との提携などについて話し合いをしましたが、それらが結実して今回の協定締結に至ったものです。

今回の協定は、両学の交流を活発にし、学術交流を深めることを目的に締結されたもので、今後両学では教育や研究、大学提携といった専門分野における教職員の交流、大学

院生や学部生の交換留学、学術的な情報や資料の共有等のさまざまな共同プログラムの構築に向けて取り組んでいきます。

同学では日本語教育にも注力しており、中等教育修了者を対象とする日本留学のための予備教育を行うコースも保有していることから、城西国際大学の日本語教育プログラムによる同学へのサポートなど、さまざまな分野における今後の協働も考えられます。また、マレーシアでは最大規模クラスの観光学部も有しており、観光学関連での交流も期待されます。

マラ工科大学は、マレー系国民の高等教育を目的として1956年に創設された国立大学で、全国20か所以上のキャンパス、21の提携大学を持ち、1万7千名の教職員を擁するマレーシア最大の高等教育機関です。

水田宗子ハンガリー奨学生表彰式を挙行

日時：2012年10月26日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



2012年10月26日、水田宗子ハンガリー奨学生表彰式が東京紀尾井町キャンパスで行われました。創立されて3年目となる今年、ブダペスト商科大学 (Budapest Business School) 、コルビナス大学 (Corvinus University of Budapest) 、セント・イシメト

バン大学 (Szent István University) 、エトヴェシュ・ロラント大学 (Eötvös Loránd University) 、ニーレジハーザ大学 (College of Nyiregyháza) 、カローリ・ガシユパール・カルコン派大学 (Károli Gáspár University of the Reformed Church in Hungary) 、ゼヴド

大学 (University of Szeged) から城西大学および城西国際大学に留学している奨学生計17人に水田理事長が表彰状を授与しました。

奨学生を代表して、城西国際大学国際人文学部に留学中のヤンポール・アリス・ラウラさんが「本奨学金により、われわれは安心して勉学に励むことができ、水田理事長をはじめ両学の関係者の皆さまに大変感謝しております。日本に留学できるこの1年間で日本語はもちろん、歴史・芸術・文化など日本のさまざまな伝統や、日本の経済・社会などを学び、日本への理解を一層深めていきたいと思っています。また、ハンガリーの母校の代表として、日本とハンガリーの交流をさらに深められる活動を積極的に行いたいと思います。そして、この1年間で私たちの将来を憂える忘れられない1年になると信じています」と流暢な日本語で謝辞と決意表明を述べました。



代表で水田理事長から賞状を授与されるビューテ・ベッティナさん



親善大使に任命された二人と水田理事長、森本学長、柳澤学長



受賞者の皆さん

奨学生表彰者

■城西大学 6名

氏名：学部	出身大学
ビューテ・ベッティナさん： 経営学部	ブダペスト商科大学
マイエル・チツラさん： 経営学部	コルピナス大学/ カーロリ・ガシュパール・カルビン派大学
ハノー・レナータさん： 経営学部	エトヴェシュ・ロラード大学
ヴァイス・エニクーさん： 経営学部	ニーレジハーザ大学
シュトルツ・ペーテル・チャパさん： 現代政策学部	コルピナス大学
ヴィッタイ・ドミニカさん： 経営学部	コルピナス大学

■城西国際大学 11名

ヤンボール・アリズ・ラウラさん： 国際人文学部	エトヴェシュ・ロラード大学
シラージ・アンドレアさん： 国際人文学部	カーロリ・ガシュパール・カルビン派大学
ナジ・ダービッドさん： 国際人文学部	セゲド大学
シャルカディ・エメシュさん： メディア学部	ニーレジハーザ大学
アレクサンダーベネデック・アンナさん： 国際人文学部	セゲド大学
ラニホーツキ・レギナさん： 国際人文学部	ブダペスト商科大学
エーシク・イルディコーさん： 観光学部	カーロリ・ガシュパール・カルビン派大学
リスニチエンコー・フェレンツさん： 観光学部	セント・イシュトバーン大学
チューケ・キッティさん： 国際人文学部	ニーレジハーザ大学
アールヴァイ・イシュトバン・タマーシュさん： 国際人文学部	ニーレジハーザ大学
ウーイハイ・スィラールドさん： 国際人文学部	ニーレジハーザ大学

その後、水田理事長より「私たちの進めてきた、多くのハンガリーの学生に日本で学んでもらうというプログラムが短期間の間に定着し、素晴らしい成果を出していることを本当に嬉しく思います。そして、ハンガリー大使をはじめとした、両国関係者の方々の多大なる努力とサポートの賜物であることを忘れてはなりません。これからの世界を作っていく主役である留学生の皆さんには、日本でさまざまなことを学んで、経験してもらい、これまでの留学生に負けないような素晴らしいキャリアを積んで欲しいと思います」と挨拶がありました。

また、「城西・ハンガリー学生親善交流大

使」の任命も行われ、マイエル・チツラさんとヤンボール・アリズ・ラウラさんの二人が新大使に任命され、水田理事長から大使のタスキがかけられました。両国の文化交流を深める大使としての活躍が期待されます。

※水田宗子ハンガリー奨学金は、2009年12月ハンガリー共和国のシヨーム・ラースロー大統領閣下(当時)が、東京紀尾井町キャンパスを表敬訪問されたことを記念して設立された奨学金制度で、ハンガリーと日本の懸け橋となる人材育成を目的に、ハンガリー学生の留学費用を助成するものです。



調印式の様子



ウイソキンスカ副学長、ムウォダフスカ教授ら関係者の方々ととの記念撮影

国際交流活動

ポーランド ウッチ大学を訪問、包括協定を正式に締結

日時…2012年11月6日
場所…ウッチ大学、ポーランド共和国

2012年11月6日、水田宗子理事長を团长とする学校法人城西大学訪問団一行はポーランドを訪問し、ウッチのウッチ大学(University of Lodz)を訪問しました。

同学とは、本年6月の訪問時に学術交流に関する覚書を締結しましたが、今回の理事長訪問を機に正式に包括協定を締結したものです。

キエル学長、ゾフィア・ウイソキンスカ副学長らが出席しました。

ウッチ大学は、ポーランドを代表する国立大学の一つで、1945年に設立され学生数は4万2千人です。国際交流も活発に展開しており、国際学・政治学部内の東洋研究所に日本語の授業もあります。

今後は、交換留学をはじめとして、日本語教育や社会科学系を軸にさまざまな形で本学との学術交流が行われていくことが大いに期待されます。



ポーランド日本情報工科大学を訪問

日時：2012年11月7日
場所：ポーランド日本情報工科大学、ポーランド共和国

2012年11月7日午前、水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学訪問団一行はポーランド・ワルシャワのポーランド日本情報工科大学 (Polish-Japanese Institute of Information Technology) を訪問しました。同学とは2011年9月に学術交流協定を

締結しており、10月には同学からの短期留学生の本学観光学部での受け入れもスタートしています。今回は、協定締結後水田宗子理事長による初の正式訪問となり、イェジ・パヴェウ・ノヴァツキ学長、バーバラ・ノヴァツカ国際担当副学長らと会談しました。会談では、長期留学やメディア・国際人文関連を含むより深い交流促進に向けて相互に取り組んでいくことを確認しました。



両学関係者による記念撮影

また、前駐日ポーランド大使であり、本学とポーランドの大学の交流のサポートをいただいたヤドヴィガ・ロドヴィッチ・チェホフスカ氏と、その夫君でドキュメンタリー映画監督のヴァルデマール・チェホフスキ氏のお二人も現在ポーランド日本情報工科大学で教鞭をとっておられ、今回の訪問時に再会することができました。お二人からは、今後の両学のメディア学部関連での交流など、今後の交流強化に向けたご提案もいただきました。

ポーランド日本情報工科大学は、ポーランドと日本政府間においてコンピュータ技術共同開発を目的として1994年に設立された私立大学です。学生数4千名で、情報科学部、新メディア美術学部、情報管理学部、建



ロドヴィッチ前ポーランド大使(中央)らと再会

築学部、日本文化学部の5学部からなっています。設立時には日本政府もIT・コンピュータの人材育成をポーランド政府と協力して育成することを目的に積極的に協力しています。2007年には日本文化学部を設

立、近年は日本語・日本文化の教育に力を注いでおり、今回の訪問時も大学内のさまざまな場所に日本画や書道、短歌などの日本文化の作品類が多数飾られていたのが印象的でした。



ワルシャワ工科大学と駐ポーランド日本大使館を訪問

日時：2012年11月7日
場所：ワルシャワ工科大学、ポーランド共和国

2012年11月7日午後、水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学訪問団一行は、ポーランド・ワルシャワのワルシャワ工科大学 (Warsaw University of Technology) を訪問しました。

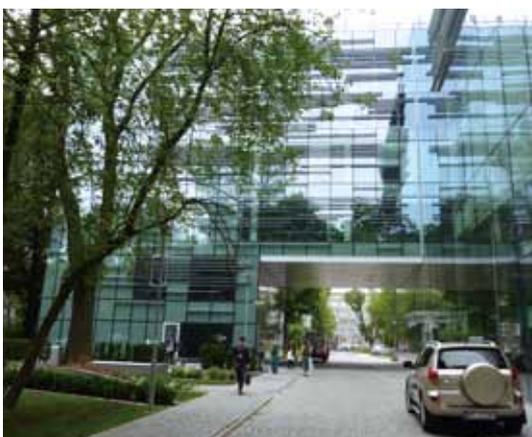
今回の訪問は、本年6月に訪問した際に今後の学術交流について討議したことを受けた2度目のもので、水田理事長らがタデウシ・クーリック副学長、ライムンド・バセヴィッ

チ副学長らと、今後の本格的な交流等に向けて会談しました。

ワルシャワ工科大学は、キューリー夫人の卒業校としても広く知られていますが、金属・硝子の結晶化、合金等の著名な研究者でもあるクーリック副学長は、本学が環境問題・エネルギー問題解決への貢献を目指してこのたび設立した「国際グリーンマテリアル研究所 (Josai International University



水田理事長とクーリック副学長



ワルシャワ工科大学キャンパス



マレーシア観光大臣の講演会を安房キャンパスにて開催

日時…2012年11月13日
場所…城西国際大学安房キャンパス



マレーシアのダトスリ・ドクター・ン・イエン・イエン観光大臣

2012年11月13日、マレーシア観光大臣・ン・イエン・イエン氏が安房キャンパスに来学され、「マレーシア観光の現状と展望」を

(Global Institute for Green Materials)の客員教授を務められるなど、本学との関係も深まっています。
今後はさらに、メディア、経営、業学関連での両学の交流が始まるのが大いに期待される所です。
ワルシャワ工科大学は、1826年に設立された学生数3万人のポーランドを代表する総合国立大学です。工科大学として中欧最大の規模ですが、マネジメント系も強く、ポーランド経済界に多数の経営者を輩出しています。

テーマにご講演いただきました。
講演では、「スピード」と「統合的アプローチ」(コネクティング)をキーワードに、マ

す。
また、ワルシャワ工科大学訪問に先立ち、訪問団は駐ポーランド日本大使館を訪れました。今回は、山中誠大使主催の昼食会にお招きいただき、大使ら大使館関係者だけでなく、同じく招待を受けていた前述のワルシャワ工科大学の両副学長や、このたび訪問したウツチ大学 (University of Tuzl)、ポーランド日本情報工科大学 (Polish-Japanese Institute of Information Technology) の方々とも親しく交流を深めることができました。



安房キャンパスでの植樹式



『日本伝統文化体験講座』に

セントイシュトバーン大学の学生が参加

日時…2012年11月20日
場所…学校法人城西国際大学東京紀尾井町キャンパス

日本学生支援機構の留学生交流支援制度により、ハンガリーのセントイシュトバーン大学 (Szent Istvan University) から城西国際大学環境社会学部に短期留学中(2012年11月15日から27日)の学生10名が東京紀尾井町キャンパスを訪れました。

11月20日、『日本伝統文化体験講座』に参加し、日本人学生とともに茶道を通じて日本の伝統文化を学ぶ機会を得ました。城西国際大学国際教育センターのブルチョウ順子(茶名・宗順)先生の指導のもと、和やかな雰囲気の中、学生たちは茶道に加えて、和服の着こなしや華道を勉強しました。

初めてのお茶会に戸惑う留学生も見られましたが、城西国際大学の学生が英語でサポートし、茶道を通じて打ち解け合うことができました。サポーターを担当した学生は、異なる文化圏の人々に自国の伝統文化を伝える難し

レーシアが世界有数の観光立国になった歴史的・文化的プロセスを中心に、多くの示唆に富んだお話を頂き、マレーシアをはじめ、インドネシア、タイなど、アジア各国のエネルギを強く感じるとともに、グローバルな人材育成の必要性を再認識するものとなりました。
マレーシアを訪問する外国人観光客は、10年前の1千万人から、現在は2千500万人まで増加しており、この実績に多大なる力を発揮されたン・イエン・イエン大臣の講演というところで、観光学部生に加え、鴨川周辺の皆さまにも多数ご来場いただきました。

さを感じながらも日本文化の奥深さを再認識することができました。

また講演会終了後には、大臣来学を記念した陽光桜の植樹式も行われました。
その後、観光学部隣接の安房ラーニングセンターにて行われたレセプションでは、マレーシアも含めた国内外で多くのホテルを立ち上げ運営してきた梅原客員教授の授業の一環として、学生たちが料理を大臣へサー빙しました。米、野菜、魚などの食材は全て地元鴨川産を使用しました。観光学部では、ホスピタリティサービス(おもてなしのこころ)を心身ともに学生たちが身につけられるよう、このような実践的教育を徹底に行っています。



お茶を受ける学生たち



Prince Takamado Memorial Sports Park 開設記念 韓南大学校と第1回サッカー国際親善試合を開催

日時…2012年12月11日
場所…城西国際大学千葉東金キャンパス

2012年12月11日、本学創立20周年を記念し、「Prince Takamado Memorial Sports Park（高円宮殿下記念スポーツパーク）」にて、公益財団法人日本サッカー協会後援により本学の姉妹校である韓国の韓南大学校を迎えて、第1回サッカー国際親善試合を開催しました。

当日は、日本サッカー協会の名誉総裁を務められている高円宮妃殿下、川淵三郎最高顧問をはじめ多くの来賓の皆さまにご臨席いただきました。



親善試合に先立ち、松の記念植樹を終えて

試合に先立ち、高円宮妃殿下、金炯泰韓南大学校総長、水田宗子理事長により、日韓国に自生している黒松の植樹を行いました。対戦相手の韓南大学校のサッカー部は韓国でも強豪のチームとして知られており、韓国の全国体育大会で優勝しています。

試合は、国際審判員の西村雄一氏が主審を務め、序盤は韓南大学校のペースでスタートしました。前半15分に韓南大学校が先制しましたが、本学も徐々に立て直し、前半34分にも、後半開始早々に2点目を挙げ、ついに



選手たちの白熱したプレー

逆転。終盤は韓南大学校の猛攻が続きましたが、本学がリードを守り抜き、2対1で勝利しました。
試合後、水田記念ホールに会場を移して地



バンコク大学学長が来学、学術交流協定を締結

日時…2013年1月18日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

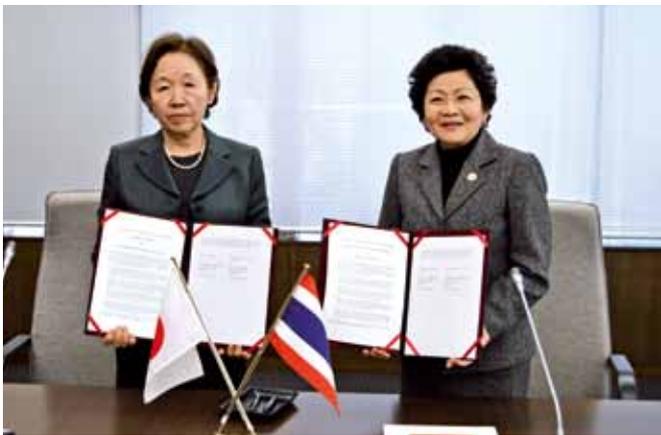
2013年1月18日、タイのバンコク大学（Bangkok University）マタナ・サンティワット学長が東京紀尾井町キャンパスに来学され、本学と学術交流協定を締結しました。本学は中期目標でグローバル人材の育成に向けた国際交流活動強化を掲げて世界のさま

域の皆さまやご来賓の皆さま、両学関係者とのレセプションも催され、サッカーを通して両学の交流をさらに深めることができました。

さまざまな大学と積極的に国際交流を深めており、最近では特に中欧やアジアでの国際交流を強化しています。バンコク大学とは昨年7月にインドネシアのペトラ・クリスチャン教大学（Petra Christian University）で行われた「アジア・サマー・プログラム（Asia Summer Program）」に両大学が参加した際に、既にプログラム交流がスタートしていましたが、今回の学長来学により学術交流を締結することになったものです。

バンコク大学は1962年に設立されたタイ最古で最大の私立大学として知られ、経済学部、人文学部、法学部、工学部、芸術学部等10の学部にて2万8千名の学生を有しています。また、タイ語だけでなく英語で講義が行われる国際プログラムも充実しています。マタナ・サンティワット学長はキャンパスにご到着後、水田宗子理事長をはじめとする学校法人城西大学の執行部メンバーらと面会しました。

締結に先立ち、水田理事長は「今回の合意を機に両大学のさまざまな交流を進めることにより、日本とタイのさらなるリレーションシップと両学でのグローバル人材の育成に寄与したい」と挨拶しました。続いて、マタ



学術交流協定を締結



実習の様子

城西国際大学では副専攻として日本語教員養成課程を擁し、2013年2月17日から3月4日まで、ハワイにある姉妹大学のリーワード・コミュニティカレッジへ日本語教員を志す学生をインターンとして海外派遣し、日本語教育実習を実施しました。本実習は独立行政法人国際交流基金の助成プログラムを受けて行われたものです。(独)国際交流基金の助成プログラムは日本語教員養成の一環として、海外に学生をインターン派遣し、海外での日本語学習を支援する機会を提供すると同時に海外の日本語学習現場を学生に体験させる内容です。

本学ではこの研修をグローバル人材の育成の一環に位置付け、グローバル社会においてリーダーシップを発揮することのできる人材を育成することを目的としています。「日本語を教える」「日本文化を紹介する」という活動を通して日本という国、文化、言語を外から見るにより世界の中の日本を学び、グローバルな視野を身に付けることをこの研



日時..2013年2月17日~3月4日
場所..リーワード・コミュニティカレッジ(ハワイ)、アメリカ合衆国

ハワイのリーワード・コミュニティカレッジで 海外日本語インターンシップを実施

ナ・サントイワット学長が「両大学には、学部構成や目指す方向性など共通点も多く、今後さまざまな形で協同プログラム等を展開することが期待できる」と話されました。

その後、協定書の締結が行われました。また、学長には本学が海外の姉妹校の女性リーダーたちと取り組んでいる女性リーダーネットワーク「LWin」にも参加していただくことになりました。

城西大学、城西国際大学の概要をご説明した後、今後の交流についての意見交換が行われました。

なお、学長は東京紀尾井町キャンパスを離れ、城西国際大学を訪問し、各学部や国際交流ラウンジ、生涯教育センターほか、主要施設を見学されました。

今後、同大学との間で、具体的な交流がスタートすることが大いに期待されます。



修了書を手

修のスローガンとし、主として次の4項目の教育に資する機会を学生に提供しています。

- ①リーダーシップを発揮できる学生の育成を目指すとともに海外の日本語プログラムについて知る。
- ②日本語非母語話者に日本語を指導することにより、日本語を再認識する。
- ③日本文化を紹介することによって自国文化を再認識し、国際性を養う。
- ④教育実習や授業見学を通じて、アメリカ・ハワイの日本語教育事情を理解する。

リーワード・コミュニティカレッジでは200名以上の学生が日本語を勉強しており、日本語の授業も活発に行われるほど日本語に対する関心も高く、研修先として最適な

2012年度日本語インターン派遣先

	国名	大学名	内容
1	ノルウェー	オスロ大学	インターン派遣
2	ハンガリー	ブダペスト商科大学	インターン派遣
3	アメリカ	カリフォルニア大学 ロングビーチ校	インターン派遣
4	アメリカ	リーワード・コミュニティカレッジ	研修
5	中国	東北大学	インターン派遣
6	韓国	東西大学	インターン派遣
7	フィリピン	アテネオ・デ・マニラ大学	インターン派遣

環境にある大学です。その日本語プログラムは30コマ以上の日本語の授業を四つのグループに分かれて担当するために、学生は研修前の事前準備として教案・教材の作成と練習を反復し、研修中は日本語学習者の反応を見ながらアクティブな授業を行いました。また、交流会では日本の文化を紹介したり、ゲームを通じて親交を深めたりするほか、ピクニックや市内観光をリーワード・コミュニティカレッジの学生と共に、学生たちはハワイの文化や「アロハ・スピリッツ」と呼ばれるハワイのホスピタリティを学ぶ機会が得られました。

城西国際大学では2009年からこの制度を利用し、姉妹大学において日本語インターンを派遣しています。2012年度も左表の姉妹大学に学生の派遣を行いました。



インドネシア バンドン工科大学と学術交流協定を締結

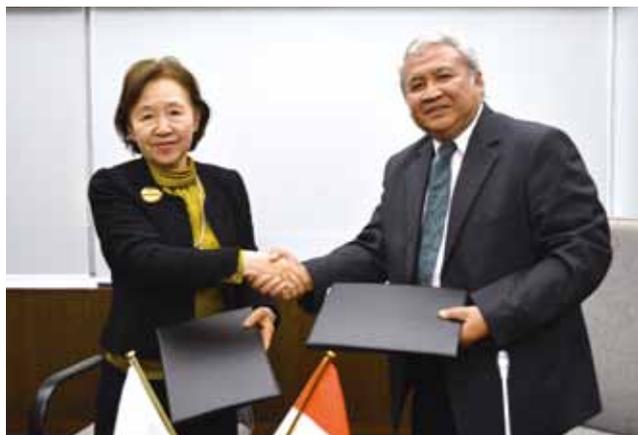
日時…2013年3月7日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2013年3月7日、インドネシアバンドン工科大学 (Institut Teknologi Bandung) のアクマロカ学長が東京紀尾井町キャンパスに来学され、本学と学術交流協定を締結しました。

本学は、中期目標でグローバル人材の育成に向けた国際交流活動強化を掲げて世界のさまざまな大学と積極的に国際交流を深めており、最近では特に中欧やアジアでの国際交流を強化しています。バンドン工科大学とは、以前から薬学部を中心に学部としての交流があり、それがきっかけとなって今回の学長来

学が実現し、学術交流協定を締結することになったものです。

バンドン工科大学は、1920年に設立されたインドネシア初の技術系高等教育機関です。また、工学教育に関しては、カリキュラムだけではなく、大学運営、財政、スタッフの質、学生対策、産学共同プログラム等にもわたって、模範校として位置付けられています。学部構成は、数理・自然科学部、生命理工学部、薬学部、地球科学・鉱物工学部、産業技術学部、電子工学・情報学部、土木・環境工学部、建築・企画・政策学部、芸術学



学術交流協定を締結



バンドン工科大学キャンパス

部、事業経営学部の10学部に1万1千8百名の学生を有しています。また、インドネシア初代大統領スカルノ大統領もこの大学を卒業しています。

アクマロカ学長はキャンパスにご到着後、水田宗子理事長をはじめとする学校法人城西大学の執行部メンバーと面会しました。

締結に先立ち、水田理事長は「本学は世界のさまざまな国々と学術交流を深めています。インドネシアの大学とはこれからさらに力を入れて行きたいと思っています。今回の合意を機に両大学のさまざまな交流を進めることにより、日本とインドネシアのさらなる

住友化学株式会社と寄付講座を含む日中間の文化・教育交流に関する覚書を締結

文化・教育交流に関する覚書を締結

日時…2012年12月4日



2012年12月4日、学校法人城西大学は住友化学株式会社と寄付講座を含む日中間の文化および教育交流の進展と、日中友好関係の深化に貢献することを目的にした覚書を締結しました。

これは、早くから中国の数多くの大学と積極的に学術交流を展開し日中間の学術文化および教育・文化交流を進展させ両国の人材育成を通じて日中友好関係の強化に貢献するという本学の取り組みと、事業を通じて日中友好関係の深化に寄与するという住友化学株式会社の考えが一致した結果、今回の寄付講座提供を含む覚書の締結にいたったものです。

本学は、中国との学術交流の一環として中国の大学において日本語・日本文学・日本文化・日本社会などの日本研究に従事する博士号を有する教員を輩出し、日中の懸け橋と

リレーションシップと両学でのグローバル人材の育成に寄与したい」と挨拶しました。続いて、アクマロカ学長が「両大学には、薬学をはじめ学部構成などで共通点が多く、今後さまざまな形で協同プログラム等を展開することが期待できる」と話されました。

その後、城西大学、城西国際大学の概要をご説明した後、今後の具体的な交流についての意見交換が行われました。

なお、アクマロカ学長は協定締結後、東京紀尾井町キャンパスの主要施設および、4月完成予定の3号棟を見学されました。

なる人材を育成することを目的に、本学の学術交流提携校である大連理工大学・大連外国語大学・東北大学との連携により「日中連携大学院」を設置、幅広い教育を展開しています。

本覚書の締結により、本学が大連理工大学と連携して行っている日中連携大学院の博士課程プログラムにおいて、日本や東アジア文化に関する同社の寄付講座を開設する予定です。また、寄付講座に加えて博士論文提出予定者の日本における調査・研究のための留学費用、論文出版費用のサポート等も予定されています。

本学は、今後も企業との産学連携を深めることを通じて社会に有意義なグローバル人材育成の取り組みをより一層進めていきます。

キャンパス機能強化

東京紀尾井町キャンパス3号棟を開設

日時…2013年4月
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



2012年1月より建設を進めてきた東京紀尾井町キャンパスの3号棟が、2013年4月に完成、開設されます。

東京紀尾井町キャンパスは、城西大学・城西短期大学の坂戸キャンパスと、城西国際大学の東金・安房・幕張キャンパスを結ぶものとして学校法人城西大学の創立40周年を記念して2005年に開設されたもので、都心の中心地にあるキャンパスとして3大学の学生と大学院生が学んでいます。また、就職センターや国際学術文化振興センター、女性センター、生涯教育センターなども設置し、研究、国際交流、就職活動支援など、学生へ幅広い支援を行うとともに、首都圏の中心地であるメリットを活かし



3号棟外観

てさまざまなシンポジウムや講演会等によるグローバルな情報発信も積極的に行っていきます。さらに、2007年にはセミナー施設と宿泊施設の両機能をもつ「2号棟」を同エリアに開設し、キャンパス機能の強化を図ってきました。

そして、本学が取り組む「幅広い教養と深い専門性を持ち、問題解決にあたる国際的な人材育成」のさらなる強化を目指し、このたび新たに3号棟を建設、開設することになったものです。

3号棟は、延べ床面積が約7千700平方メートル、地下1階地上5階建ての建物で、約250名収容の大教室をはじめとして中教室や小教室が整備されているとともに、最上階の5階には同時通訳ブースを備えた国際会議場も設置されています。同会議場の前には広々とした屋外テラスもあり、会議の合間に四季折々の植栽に囲まれて憩いの一時を過ごすことができるようになっています。

また、この建物は災害に対する備えも充実しており、十分な耐震性能をもっていることはもちろん自家発電装置等も装備し、万一の事故や災害の際には、学生や教職員はもとより近隣住民の避難の際に必要なさまざまな災害救援物資を収納する災害備蓄倉庫も完備されています。

さらに、地下にはさまざまな催し物に対応できる水田美術館アートギャラリーや、多数の化石コレクションを展示する大石化石ギャラリーも併設されています。

水田記念博物館 大石化石ギャラリーを併設

3号棟地下に併設する水田記念博物館大石化石ギャラリーは、かずさDNA研究所理事長・分子生物学、分子遺伝学者でもある大石道夫氏ならびに中国の姉妹校から提供を受けた化石等を主な収蔵品としています。また、本学姉妹校でもある瀋陽師範大学古生物博物館の協力により制作された大型肉食恐竜の骨格模型レプリカも設置します。

大石化石ギャラリーでは、「化石から未来を創る」をテーマに、1億年前の白亜紀の水棲生物をはじめとする数々の化石や、魚類の進化史、過去の温室地球と現在の温暖化現象との比較考察など、タイムカプセルとしての化石が持つ不思議と魅力に迫る化石標本の展示を行います。

本学では、この大石化石ギャラリーを通して、国際教育連携の促進だけでなく、地域や近隣の子どもたちが科学教育について知的興味を持てるように展示内容はもちろん、IT学習、ワークショップなど工夫をこらして展開していく予定です。



水田記念博物館大石化石ギャラリー

講演会・シンポジウム

第3回日中経済経営フォーラム JOSA I を実施

日時…2013年1月29日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



2013年1月29日、第3回日中経済経営フォーラム JOSA I を学校法人城西大学イノベーションセンター主催にて東京紀尾井町キャンパスで実施しました。大連理工大 学交通運輸学院院长の趙勝川教授を講師に迎え「中国における都市物流の新しい動向」のテーマで講演が行われました。

講演には城西大学・城西国際大学の大学院生とともに、外部から公的機関や一般企業からも多くの方々に参加いただき、合わせて約80名の来場客による大盛況の講演会となりました。

講演は都市における物流の基本的な機能の説明から始まり、交通需要の視点での分析、中国物流政策の特徴にも触れ、大変興味深い内容でした。また、物流による都市部の大気汚染への中国政府の対策事例としてグリーン交通が取り上げられ、講演後には講師との質疑応答形式で十分な議論の時間をとり、活発な質疑応答が行われました。



講演する趙勝川教授

●周辺図



— 東京メトロ有楽町線 — 東京メトロ銀座線 — 東京メトロ南北線
 — 東京メトロ半蔵門線 — 東京メトロ丸ノ内線 — JR線

アクセス インフォメーション

- 東京メトロ有楽町線 麹町駅1番出口より徒歩3分
- 東京メトロ半蔵門線・南北線 永田町駅9a番出口より徒歩5分
- 東京メトロ丸ノ内線・銀座線 赤坂見附駅D出口より徒歩8分
- JR中央線・総武線 四ツ谷駅より徒歩10分



国際アドミニストレーション研究科独立記念
 エグゼクティブ・プログラム開催

講演会
 シンポジウム

日時…2013年2月13日
 場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2013年2月13日、エグゼクティブ・プログラムを東京紀尾井町キャンパスで実施しました。このプログラムは城西国際大学の国際アドミニストレーション研究科の独立を記念し、学内外、広く専門家を招き行われます。第4回目となる今回は、小野寺正KDDI株式会社代表取締役会長により「情報通信（ICT）産業のグローバルイゼーション」をテーマに講演を行いました。

動向と地域別現状や、世界の地域ごとの通信規格・技術、文化、言語の違いなどを背景にした通信業界独特のグローバルイゼーションとローカライゼーション、グローバルイゼーションの今後の展望・課題と日本の通信業界、KDDIの基本事業戦略等についてのお話がありました。講演終了後の質疑応答に多くの質問や意見が提示され、通信産業のグローバル化について白熱した議論が展開され、大盛況の講演会となりました。



講演会の様子

学校法人 城西大学

 城西大学 / 城西短期大学  城西国際大学

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26 TEL.03 (6238) 1300

学校法人 城西大学 <http://www.josai.jp/>

城西大学 <http://www.josai.ac.jp/> 城西国際大学 <http://www.jiu.ac.jp/>

学校法人 城西大学 国際学術文化振興センター

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26

TEL 03 (6238) 1300 FAX 03 (6238) 1299